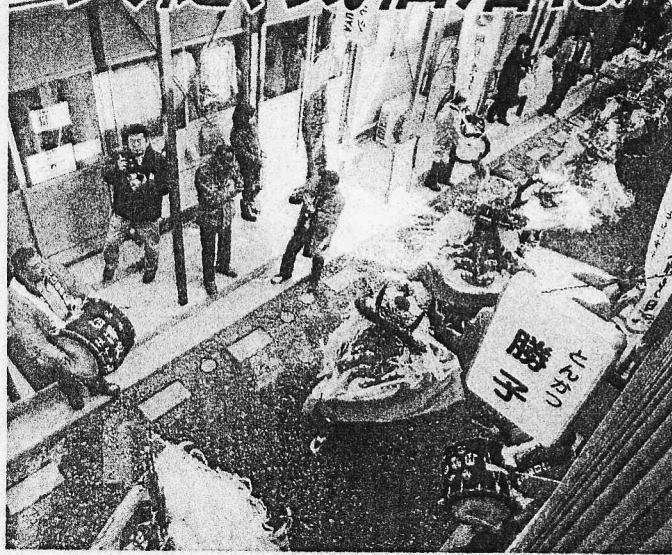


大槌、気仙沼はくじけない



鹿踊りを披露しながら南町紫市場を練り歩く大槌町民ら＝3月4日、気仙沼市南町（大槌商工会提供）

進め 仮設商店街

島が縁、姉妹協定結ぶ

大槌町大槌の仮設商店街、福幸ふくゆききらり商店街（山崎繁会長、39店舗）と気仙沼市南町の気仙沼復興商店街南町紫市場（村上力男理事長、52店舗）は9日、姉妹協定を結んだ。故井上ひさしさんの人形劇「ひょうこりひょうたん島」のモデルとなった大槌町の蓬萊島と、同市の観光拠点でもある大島にちなみ「ひょうたん島姉妹商店街連携協定」と命名。今後は意見交換会やイベントを共催し、県境を越えたスクラムで、相互の商工業の再興を目指す。

魅力発信 スクラム

協定調印式はきらり商店街で行われ、同商店街約10人、紫市場約30人が参加。村上理事長は「東北人の粘り強さを生かして、お互い切磋琢磨し連携していきたい」とあいさつ。山崎会長と共に協定書に調印し、固く握手を交わした。

両商店街の交流は3



仮設商店街同士の連携に向け、姉妹協定を結び、握手する山崎繁会長（右）と村上力男理事長＝9日



月4日にスタートした。震災後、本県と宮城県で医療支援やコミュニケーション形成支援を行うNPO法人AMDA（菅波茂代表、本部岡山市）が仮設商店街同士の連携を強めようとの提案。きらり商店街の関係者や町民らが南町紫市場を訪れ、鹿踊りを披露するなどして親交を深めた。協定は山崎会長が村上理事長に申し出た。山崎会長は「紫市場は観光客の誘客にも積極的だ。連携すれば事業者の刺激になる」と意欲を高める。東日本大震災で大槌町では商工会加入の442事業者のうち387事業者、気仙沼市では商工会議所に加入の1480事業者のうち

1307事業者が被災。現在、同町では仮設商店街6カ所に77店舗、同市では商店街8カ所に132店舗が入居する。両商店街とも昨年12月に開業したが、交通の便の悪さが共通の課題だ。きらり商店街は車のない住民には出掛けにくく、町の人口減が進む中で一層の魅力づくりによる誘客が不可欠となっている。両商店街は当面、意見交換会などを通じ、誘客方策を研究する。互いのPRやアショッパの設置、事業なども検討し、山崎会長は「うたん島の歌に通じ、『だじど』に商店街を盛りい」と意気込む。